

社会教育研究部門

「教育と公共」研究部会（第21回）

日時：2021年1月14日（木）13:00～16:10

場所：オンライン（ZOOM使用）

出席：田嶋一・浅井幸子・上野正道・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員
吉久知延所長・金沢千秋・山口和人・川上智子

内容：（1）藤井研究員の報告：「トーマス・イングランドにおける熟議コミュニケーションと公共」

- ◆はじめに：ハーバースの熟議民主主義論を手がかりに書かれた、トーマス・イングランドによる論文「熟議民主主義の考えにおける教育的含意」（2010）を読み、熟議コミュニケーション・学校・公共の関係について考える
- ◆イングランドの提案：「複数性による政治的リテラシーのための教育」を構想、複数の世界を理解するシティズンシップ・リテラシーを発展させる教育の実現を目指す
- ◆熟議コミュニケーションのための5つの提案
- ◆弱い公共性としての学校
- ◆教師のコントロールのない生徒間の熟議
- ◆おわりに：イングランドが提案する熟議コミュニケーションは、現在進行形の熟議民主主義を実現するための、教育からの提案である。
- ◆質疑応答

（2）浅井研究員の報告：「レッジョ・エミリア市の幼児教育の歴史から」

- ◆社会に参加する市民としての子供という概念を強く打ち立て、幼児学校／乳児保育所において質の高い幼児教育を行っているレッジョ・エミリア市の教育のあり方・子ども観・歴史を、以下の項目のもと紹介
- ◆市民としての子ども：「100の言葉」によって具体化されるレッジョの子ども観
- ◆公教育の歴史：「住民立」学校の公立化とカソリック教会からの解放
- ◆子どもの権利条約との関係：背景は1989年国連の「子どもの権利条約」採択
- ◆質疑応答

・次回研究会は 2月19日（金）13:00～

・次々回は 3月12日（金）13:00～